

# 老健の在宅復帰に関する研究 栄養指導に関する研究

柴田学園大学 健康栄養学科

江畠 年巳

TEL 0172-32-2289

FAX 0172-33-2486

顔写真等  
(希望者のみ)

e-mail t-ebata@shibata.ac.jp

キーワード

介護福祉、老健（在宅復帰）、栄養指導

病院から直接在宅に戻る前の「中間的な場所」として介護老人保健施設（老健）は重要な役割を担っている。ここでしっかりと準備ができれば、高齢者の生活の質を向上させるとともに、経済的な負担や介護保険・医療保険にかかるコストの削減にもつながると考えられている。青森県を含む北東北三県にある老健施設に焦点を当て、現在どれくらい在宅復帰が進んでいるのか（実態）や、どんな要因が在宅復帰を後押ししているのか、在宅復帰がもたらす効果は何かといった点について研究を進めている。

病院で行われる栄養指導をより効果的にするために、患者さんが栄養指導についてどう感じているか、また健康についての正しい情報をどれくらい理解しているか（ヘルスリテラシー）との関係を調べました。そのために、患者さんに「健康や栄養に関する知識や理解」や「栄養指導に対する気持ち」などについてアンケートを取り、どんなことが栄養指導の効果に影響しているのかを研究しました。

これまでの研究テーマ

- 青森県の介護老人保健施設の現状と課題について—老健の役割と在宅復帰機能
- 在宅介護におけるショートステイサービス利用の要因分析—楽天インサイトにおけるアンケート調査を基に—
- 北東北三県の介護老人保健施設の介護職員の現状と課題について—介護職員の離職要因の分析—
- 栄養指導に関する患者の意識と患者のヘルスリテラシーとの関連について